



去る9月8日、9日、15日、16日の土日、「第55回 JBA ソフトボール大会」を開催した。今年は32チームが参加し、熱い戦いを展開した(詳細はp.2-3)。

2-3 「JBA 第55回 ソフトボール大会」報告

4-5 アメリカで活躍するJBA会員企業インタビュー

●JFC International Inc.

6-7 第212回JBAビジネスセミナー報告

「今後の日本経済とドル/円相場 ~米国主導の世界経済成長
と貿易摩擦の下での日本経済とマーケット見通し~」報告

8-11 各部会からのお知らせ/新入会企業紹介

12 11月・12月のJBAイベントカレンダー

<http://www.jba.org>

1411 W. 190th St. Suite 220, Gardena, CA 90248
Phone : 310-515-9522 Fax : 310-515-9722

「JBA 第55回 ソフトボール大会」報告

去る9月8日、9日、15日、16日の土日、ハンテントンビーチのCentral Park Sports Complexで「第55回 JBA ソフトボール大会」を開催した。女性参加を促す新ルールや、早々に敗退したチームも試合を続けられるコンソレーションマッチ制度の導入など、新たな試みが多かった同大会をレポートする。

2つの大きなルール改変で 新たな局面を迎えた同大会

今年で55回目を迎えた、毎年秋恒例のJBAソフトボール大会。今年も例年とほぼ変わらず32チームが参加し、熱戦を繰り広げた。今回は2つの大きなルール改変があった。1つは、女性プレイヤーがフル出場した場合、総得点に3点が加点されるというもの（※女性プレイヤーが何人に増えても加点は3点まで）。女性プレイヤーの出場促進を狙っての新たな試みだ。もう1つは、コンソレーションマッチ（敗者復活戦）制度の導入。従来は、まず4～5チームず

つのブロックに分けて総当たり戦を行い、勝ち上がった16チームには優勝を決めるトーナメント戦に出る権利が与えられ、それ以外のチームは敗退となっていた。しかし、今回は敗退した残りのチームによるトーナメント戦（＝コンソレーションマッチ）も行い、その中で優勝チームを決めることとなった。「強豪チームだけでなく、気軽にソフトボールをプレイしたいチームにも、大会を楽しんでほしい」という配慮だ。今回はこれら2つのルール改変によって、いい意味でこれまでとはひと味違った様相の大会となった。

どこが優勝してもおかしくない 実力の拮抗したチームが勢揃い!

そんな新ルールの下、初日と2日目は例年通り、4チームごとの8ブロックに分かれて総当たり戦を行い、各ブロックの上位2チーム、計16チームが3日目からのトーナメント（チャンピオンシップマッチ）に進出した。また、敗退した16チームも、前述の通り、コンソレーションマッチへと駒を進めた。

まずチャンピオンシップマッチの8強には、Mitsubishi Electric（過去優勝8回）、Tokio Marine（14年大会優勝）、Yamaha Motor-B（17年大会優勝）という優勝経験のある強豪3チームに加え、Hotta Liesenberg Saito、Konoike-Pacific、Nippon Express、Ernst & Youngと、近年のベスト8常連チームが順

当に勝ち上がった。加えて、Shimadzuも11年以來の8強入りを果たした。そしてコンソレーションマッチのベスト8にはToyota Tsusho、Ishigami、Ishigami、& Ochi、Yamaha Corporation、MUFG Union Bank、Seeknet、Mazda、JTBの7チームが勝ち上がった（もう1チームは棄権）。

さて、大会3日目に行われたチャンピオンシップマッチのベスト8、4試合の様子は、まずMitsubishi Electric対Shimadzuから。ベスト16ではDenso Tenを相手に33対4の圧勝劇を演じたMitsubishi Electricだったが、この試合ではなかなか打線がつかまらない。反対に、女性プレイヤーを擁するShimadzuは強豪相手に一歩も引かず、5回時点で6対4とリード。6回の裏に7点奪取のビッグイニングを作ると、7回（最終回）の表を無失点に抑えてゲームセット。13対7で勝利した。

続くHotta Liesenberg Saito（女性プレイヤーなし）対Tokio Marine（女性プレイヤーあり）の一戦は、2回まで8対6と互角の展開。しかし、3回～5回にHotta Liesenberg Saitoが毎回7点を奪う猛攻を見せ、29対7で圧勝した。

Nippon Express対Konoike-Pacificは、女性プレイヤーありのNippon Expressが女性プレイヤーなしのKonoike-Pacificを23対21で破るという、今大会を象徴するような試合の1つとなった。23対16とリードされて7回裏を迎えたKonoike-



2週末にわたって早朝から会場に足を運び、大会の運営を行った企画マーケティング部会・ソフトボール班の面々。



圧倒的な力でベスト8まで勝ち上がったMitsubishi Electricだったが、新星Shimadzu相手に涙を飲んだ。



Nippon Expressと迫力の打撃戦を演じるも、最後は女性プレイヤー有無の得点差で敗退したKonoike-Pacific。



二連覇も期待されたYamaha Motor-Bだったが、今年もベスト8で敗退。Ernst & Youngが強かった。



準決勝では優勝したHotta Liesenberg Saitoと互角に渡り合い、その後の3位決定戦も見事勝利したShimadzu。



Nippon ExpressとErnst & Youngの準決勝。互いに一歩も引かず、熱いプレーの応酬となった。

Pacificは大逆転を狙って打線をつなげ、5点を奪ったが、惜しくも届かず敗退した。

8強4枚目のカードはYamaha Motor-B(女性プレイヤーなし)対Ernst & Young(女性プレイヤーあり)。ディフェンディングチャンピオンのYamaha Motor-Bだが、この試合では精彩を欠き、なかなか得点が奪えない。対するErnst & Youngは毎回着実に得点を重ねていき、結果は18対9でErnst & Youngの勝利。昨年の覇者がベスト8で消えることとなった。

今年も初優勝チームが誕生! コンソレーションマッチの行方は?

最終日の準決勝はShimadzu対Hotta Liesenberg Saito、Nippon Express対Ernst & Youngの2カード。Shimadzu対Hotta Liesenberg SaitoはHotta Liesenberg Saitoが初回、いきなり6点を奪うと、Shimadzuも3回までに11点を返し逆転。4回終了時点ではShimadzuが12対8とリードしていた。しかしここからHotta Liesenberg Saitoが立て続けに加点していく。Shimadzuもくらいついたが、19対17でHotta Liesenberg Saitoが勝利し、初の決勝の舞台へとコマを進めた。

共に女性プレイヤーを擁するNippon Express対Ernst & Youngも白熱の試合に。初回、Nippon Expressがいきなり6得点の猛攻を見せるとさかさずその裏、Ernst & Youngが4点を返すという形で打撃戦の火蓋が切って落とされた。最終的には、2回に5点、4回に7点、6回に8点とより多くの見せ場を作ったErnst & Young

が、28対22で競り勝った。

3位決定戦はShimadzu対Nippon Express(共に女性プレイヤーあり)。ここまでトーナメントを盛り上げてきた両雄の対決はやはり接戦となったが、15対14の僅差でShimadzuが勝利した。

そしてついに、Hotta Liesenberg SaitoとErnst & Youngによる頂上決戦。Hotta Liesenberg Saitoは女性プレイヤーなし、Ernst & Youngは女性プレイヤーありという点も、今大会を総括するようで、興味深い対決となった。まずHotta Liesenberg Saitoが1回に2点、2回に7点といきなりの猛攻。しかし対するErnst & Youngも2回に1点、3回に2点、4回に1点、5回に3点と細かく得点を重ねて食い下がる。決勝らしい好ゲームとなったが、4回以降も順調に打線をつなげたHotta Liesenberg Saitoが、17対14で試合を制して見事初優勝を飾った。

ちなみに、もう一つ気になるコンソレーションマッチの行方だが、決勝はYamaha Corporation対JTBの一戦となった(両チームとも女性プレイヤーあり)。そして、Yamaha Corporationが14対11で見事優勝! どちらのチームも選手、そして応援団の一体感があり、和気あいあいとした雰囲気が印象的だった。

大会終了後には表彰式を実施。企画マーケティング部会・ソフトボール班の水野班長が優秀チームにトロフィーや賞品を手渡し、選手たちを労った。新ルールの導入により、新たな盛り上がりを見せたソフトボール大会。来年は果たしてどのような大会になるか、今から既に楽しみである。



JTBとのコンソレーションマッチ決勝戦を制したYamaha Corporation。一時は10点差を付けられてからの大逆転!



どちらが勝っても初優勝だった、Hotta Liesenberg SaitoとErnst & Youngの決勝戦。両チームが死力を尽くした。



優勝トロフィーを受け取る、Hotta Liesenberg Saitoキャプテンの上條さん。「来年は二連覇を目指す」と頼もしい一言。



7位 Mitsubishi Electric



8位 Konoike-Pacific



コンソレーションマッチ1位
Yamaha Corporation



コンソレーションマッチ2位
JTB

トーナメント上位チーム



優勝 Hotta Liesenberg Saito



準優勝 Ernst & Young



3位 Shimadzu



4位 Nippon Express



5位 Tokio Marine



6位 Yamaha Motor-B

ソフトボール協賛企業(アルファベット順)

- Asahi Beer U.S.A., inc.
- ITO EN (North America) Inc.
- Kirin Brewery Company, Limited
- METRO SIGNS, INC.
- Morinaga Nutritional Foods, Inc.
- MUFG Union Bank, N.A.
- Nissin Foods (USA) Co., Inc.
- Pacific Guardian Life Insurance Company, Ltd.
- Sanyo Foods Corporation of America
- Sapporo U.S.A., Inc.
- Taisho Pharmaceutical California, Inc.
- Yakult U.S.A. Inc.

アメリカで活躍する JBA会員企業 インタビュー

File
5

ここアメリカで活躍するJBA会員企業の、アメリカ進出の歴史や事業内容、今後の展開などに迫るコーナー。

同社のこれまでの歩み

- 1906 ● Dupont Company設立(11年にPacific Trading Companyに社名変更)
- 1942 ● ロサンゼルスにModern Food設立
- 1948 ● サンフランシスコにPacific Mutual Sales (Pacific Trading Companyのアメリカ事業を継承した会社)設立
- 1958 ● サンフランシスコにJapan Food Corporation設立(Modern FoodとPacific Mutual Salesが合併)
- 1969 ● キッコーマンがJapan Food Corporationに資本参加
- 1978 ● Japan Food CorporationをJFC International Inc.に社名変更
- 1984 ● 最高級特撰米「錦」発売開始
- 1994 ● 最高級短粒米「玉錦」発売開始
- 2008 ● JFC International本社をサンフランシスコからロサンゼルスへ移転

JFC International Inc.

北米を中心に、世界各地に日本食品、東洋食品を供給する日系食品商社、JFC International。100年以上の歴史を持ち、キッコーマンの子会社としてアメリカでのしょうゆの普及にも尽力した同社の歴史や今後に迫る。

一 貴社の前身であるDupont Companyは当時、どのような事業を行っていたのでしょうか？ また、その後、JFC Internationalになるまでの歩みを教えてください。

戦前は、「タクアン貿易」と呼ばれた日本からの移民への日本食供給が主体で、取り扱い商品は米や味噌、しょうゆ、日本酒などでした。1911年にはPacific Trading Companyと社名を変更してビジネスを拡大していくも、戦中に米国拠点を失いました。しかし、終戦後の48年、Pacific Trading Companyのアメリカ事業を継承する形で、サンフランシスコにPacific Mutual Salesが設立。そして同社が58年、日系貿易会社Modern Food社と合併し、現在のJFCの母体であるJapan Food Corporationが設立されました。そこから社名がJFC Internationalに変わったのが、78年です。

一 キッコーマン傘下となった経緯を教えてください。

戦後、日本から帰任した約300万人のアメリカ人を中心にアメリカ家庭でのしょうゆの使用が拡大することを見越したキッコーマンは、市場の開拓と拡大を進めるべ

く、57年にアメリカでの現地販売会社、Kikkoman International (現 Kikkoman Sales USA) を設立。これを機に、アメリカでの本格的なしょうゆの販売を始めました。その後、移民法改正(65年)によるアジアからの移民急増とそれに伴う日本食や東洋食の消費拡大を見込み、69年、日系、アジア系市場への販売強化を図るべく、当時のJapan Food Corporationに資本参加しました。

一 今や、アメリカ家庭の半分にはしょうゆがあると言われていますが、当初、どのようにしてしょうゆを広めたのでしょうか？

マーケティング、販売においては、アメリカの現地市場はKikkoman Internationalが、日系、アジア系市場はJapan Food Corporationが担当し、それぞれでシェアを拡大していきました。特に、しょうゆがあまり知られていなかった現地市場について言いますと、スーパーマーケットの店頭でデモ販売を実施するなどして、とにかく肉との相性の良さをアピールしていきました。また、アメリカ人のライフスタイルの中で、より自然にしょうゆ味に親しんでもらうことを目的に、キッコーマンはアメリカで広く一

1973年、残業をしているアメリカ人の割合は6%

2016年、アメリカ人の26%が働きすぎと回答

ムダな業務、
そろそろやめませんか。



kintone

<https://www.kintone.com/jp>



取り扱い商品は、しょうゆ、米、味噌、酒、酢などをはじめ、多種多様。自社、他社ブランドを含め、1万5000アイテム以上にも上る。



1934年、サンフランシスコの港に到着した日本酒の前で記念撮影する、当時の社員や得意先。



お話をうかがったのは

小川俊行さん

JFC International Inc. 本社副社長マーケティングプランニング本部長。1987年、キッコーマン株式会社入社。ヨーロッパや中米にあるJFCのゼネラル・マネージャーを歴任後、2013年、JFCシカゴ支店長に就任。17年より現職。



2008年に新設された、超低温冷凍庫など最新鋭の設備を持つLA本社および物流センター。



同社の最高級短粒米「玉錦」(左)と、新製品の日本産最高級コシヒカリ米「新錦」(右)。



キッコーマンのしょうゆおよびテリヤキソースなどのしょうゆ加工品は、主力取り扱い商品の一つ。

般的に行われているバーベキューに着目し、61年、しょうゆをベースにアメリカ人好みの味に仕上げたテリヤキソースを発売しました。これが店頭販売をはじめとする地道なマーケティングと販売活動の結果、ヒット商品となり、しょうゆはアメリカの食文化に浸透していきました。そして73年にはウィスコンシン州に工場を設立し、しょうゆ、テリヤキソースの現地生産を開始したのです。

一しょうゆも含めた、日本食品、東洋食品の卸売事業に関して、これまでの歩みを教えてください。

創業当初～戦後は、最初に申し上げた米や味噌などの他に、いなりずしの素やちらし寿司の素などの缶詰商品を主に扱っていました。そこから65年以降のアジア系移民の人口拡大、76年以降の寿司ブームがあり、さらに77年にアメリカ上院の栄養問題特別委員会が、「日本の伝統食こそ

が健康的に理想の食事」(『マクガバン・レポート』)と発表したことで、日本食の消費が拡大。シーフードや米、しょうゆなど弊社が取り扱う商品の需要も大きく伸びました。また、レトルト技術の向上や冷凍流通網の拡大、物量の拡大などを背景に、日本のナショナルブランド商品をアメリカにそのまま届けることが可能になったのも、強い追い風となりました。そのほか、米の現地生産も積極的に行い、84年には最高級特撰米「錦」を、94年には最高級短粒米「玉錦」を販売開始。これらはカリフォルニア米のトップブランドへと成長しました。また、80年頃からは米系スーパーマーケットに対しても積極的に販売を開始し、まずSafewayを中心に販路を拡大。2002年にはWalmartとの取引も開始しました。これら米系スーパーマーケットには、「Dynasty」や「Imperial Dragon」など、アメリカ人の嗜好に合わせたブランドを販売しています。

一09年以降も、売上が右肩上がりです。順調に推移されています。原動力は?

オーセンティックな日本食レストランやエスニック・フュージョンレストランが継続的に増えていること。また、日本のインバウンド需要が高まる中、日本のラーメン店や居酒屋などが業態を変えずともアメリカでそのまま受け入れられる傾向にあり、弊社のビジネスにも好影響を与えています。実際、日本のレストランチェーンの米国進出で食材調達の相談を受けるケースも多いですね。あと、ここ数年のトレンドだと、やはりラーメン関連の商材がよく売れています。また、日本酒は大手だけでなく、日本各地の特定名称酒の売上が伸びてきていますね。

一今後の展望をお聞かせください。

「Quality Merchandising and Good Service」という方針の下、今後も品質管理、安全性を重視しながら、お客様と共に成長を続けていければと思っています。

IACE TRAVEL

法人のお客様へ

ロサンゼルス支店 310-323-5551

ウェストLA支店 310-445-1401

オレンジカウンティ支店 714-557-7772

サンディエゴ支店 866-924-4223

クルーズ課 877-224-4223

日系旅行会社唯一の

安心24時間365日

日本語サポートサービス!

北米予約センター **1-877-489-4223** 24/7 OPEN

トールフリー ヨヤク IACE

オンラインではできない
キャンセル待ちのリクエストも可能!

www.IACE-USA.com

今後の日本経済とドル／円相場 ～米国主導の世界経済成長と 貿易摩擦の下での日本経済と マーケット見通し～

去る9月14日、トーランスのMiyako Hybrid Hotelで、第212回JBAビジネスセミナーを開催した。当日は、JPモルガン・チェース銀行から佐々木融さんを招き講演。日本の失業率が25年前の水準まで低下し、日銀の金融政策に動きが見え始める中、今後の日本経済およびドル円相場の動向について解説した。

【講師】

佐々木融さん

JPモルガン・チェース銀行東京支店、市場調査本部長およびマネジング・ディレクター。上智大学卒業。日本銀行調査統計局、札幌支店を経て国際局為替課やニューヨーク事務所を歴任。2003年4月にJPモルガン・チェース銀行に入行し、15年6月より現職。



世界の景気とアメリカの金融政策

講演の冒頭で佐々木さんは、世界経済の成長について概説を紹介。2011年以降、世界の成長率は6年連続で2.6～3.2%に収まっていたが、17年、18年はその上限をやや超える勢いとなっているとした。

一方日本は、16～17年の実質GDP成長率は1999～00年以来の8四半期連続のプラス成長を記録。その後、18年第1四半期にマイナス成長となったものの、第2四半期には反発を見せたという。今景気拡大期(12年12月～)は18年8月で69カ月目となっており、73カ月続いた戦後最長記録であるいざなぎ景気に次ぐ2番目の長さとなっている。

またアメリカでは、法人税の減税に加え歳出上限引き上げがあったことから、引き続き強い成長が予想されている。今景気拡大期(09年7月～)は18年8月で110カ月目となり、戦後2番目の長さ。このままいけば19年6月で最長となる見込みだ。そうした状況を踏まえ佐々木さんは、「18年前半の各国成長率を見ると、アメリカが世界経済を牽引したと言えます」と解説した。

次に金融政策の話題に移った。世界的に金融緩和の傾向が続いており、主要各国の政策金利は、実質金利ベースでマイナス圏にあるという。そうした中で日本銀行は、18年7月に2年ぶりに金融政策を微調整。それを踏まえ、佐々木さんが所属するJPモルガン・チェース銀行が出している予想を次のように紹介した。

「当行では、10年金利ターゲット引き上げの時期を20年4月、引き上げ幅は15bp(bp=Basis Pointとは債券の利回りや金利の変動に用いられる単位のこと。1bp=0.01%)程度と予想しています。その一方で、FRB(連邦準備制度理事会)は18年中にあと2回、来年中に4回の利上

げを行うと思われます」。

Fed(連邦準備制度)の今回の利上げ継続期間は18年6月の利上げで31カ月目となるが、11月に利上げを行うと歴代1位の長さとなる。そこで注目すべき点として、佐々木さんはアメリカのイールドカーブが大きくフラット化(※)していることを挙げた。イールドカーブとは、期間を横軸に、最終の利回りを縦軸にとって債券の利回りをグラフ化した利回り曲線を意味する。佐々木さんによると、過去3回のリセッション(景気後退)の前にイールドカーブはインバート(※)している。現在、10年ものから2年ものを引いた金利の差は20bp程度まで縮小しており、あと1回利上げすると逆転(=イールドカーブがインバート)する可能性が出てくると解説。リセッション入りするかどうかは気になるところだと述べた。

※短期債券と長期債券の金利差が縮小すると、イールドカーブの傾斜が緩やかになる。これをフラット化と呼ぶ。それに対して、両者の金利差が大きくなることをスティープ化と呼び、まれに短期債券より長期債券の金利の方が低くなる(=長短金利が逆転する)現象が起こると、カーブは右下がり(逆カーブ)となる。これをインバートと呼ぶ。

世界経済におけるドル円の動向

アメリカの一人勝ちではなく世界景気が全体として拡大する場面では、ドルも円も資本調達通貨(ファンディング通貨)として弱い通貨になる傾向がある。その理由として佐々木さんは、「良好な世界景気を背景に市場がリスクオン(リスクを取ってでもリターンを追求する=リスクが高い資産に投資が増える状況)となる時に、アメリカと日本のそれぞれの資金が海外に行く傾向があるからです」と説明。反対に、世界的な景気の悪化により投資家心理が悪化すると、ドルや円を調達通貨とした投資ポジションが巻き戻されるため、両通貨の買戻しが起きるとした(リスクオフの時)。

21241 S. Western Ave., Suite 200
Torrance, CA 90501
Tel: (310) 320-2700 Fax: (310) 320-4630

Kakimoto & Nagashima
A Division of SingerLewak

www.singerlewak.com

日本人スタッフによる信頼できるサービス

会計監査・会計全般
税務全般(企業、個人)
会計アウトソーシング
コンピューターコンサルティング
経営コンサルティング

さらに佐々木さんは、ドル安に加えて次の4つの事例が(一時的にせよ)円高を押し進めると要因となり、ドル円の上値を抑えたと予想している。

- ①アメリカとの通商問題に対する懸念
- ②安倍政権に対する懸念
- ③日銀の金融政策に対する懸念
- ④EM市場(新興国・地域の金融市場)の不安定化

佐々木さんは、「17年は主要通貨の中でドルが最弱、円は3番目に弱い通貨となりました。その結果、17年中のドル円相場は1ドル107.32～118.60円、9.5%と非常に狭いレンジで推移しました。現在のところ18年も狭いレンジで推移しており、今年の後半も引き続き狭いレンジ内での推移となるでしょう」と予想。

そして、「ちなみに、Fedの利上げは必ずしも米ドルの上昇にはつながりません。ドルはFedの利上げ期待が高まる中で上昇しますが、実際に利上げが始まると、むしろ弱い通貨となる傾向があります。Fed利上げをできる環境はリスクオンの時で、前述のメカニズムに従ってドルはファンディング通貨として売られるからです」と補足した。

また、14年7月以降にドルが急上昇した局面では、①EM経済の成長鈍化によるアメリカへの資金回帰、②アメリカだけが金融政策正常化に向かうという期待の高まり、がその主因であったのに対して、17年以降は、①EM諸国の回復によるファンディング通貨としてのドルの売却、②その他の主要国の金融政策正常化、③トランプ政権の保護主義に対する懸念、などの情勢を背景に、ドル安が続いていると解説した。

円高(ドル安)およびその抑制要因

貿易摩擦も円高要因となり得る。17年のアメリカの貿易赤字(8112億ドル)に

占める対中赤字は3757億ドルと全体の46%だったのに対して、対日赤字は626億ドル。対中赤字の5分の1程度しかなかった。これは、1990年代前半に対日赤字がアメリカの貿易赤字全体の半分以上を超えていた時代と比べると、全く様相が異なっている。また、佐々木さんはこう語る。

「ただし、日本の対米黒字である7.0兆円のうち、自動車の貿易黒字が4.5兆円もあることが気になります。9月末には日米首脳会談がニューヨークで行われる可能性があります。そこでトランプ大統領が2国間FTA交渉を迫り、安倍首相が受け入れる可能性も否めません」。

また、日米物価推移の差も円高の可能性を示唆している、と佐々木さん。理論的には物価上昇は通貨価値の下落(物価下落は通貨価値の上昇)を意味している。過去18年間における日米のインフレ率を見ると、48%も差がある(アメリカの方がインフレが進んでいる=ドルの価値が下がっている)にもかかわらず、ドル円は99年末比で若干の円安水準。実質的にはかなりの円安と言えるようだ。また佐々木さんは、日銀が算出する円の実質実効レートは、過去20年の平均から25%割安だと補足。円は歴史的な円安水準にあるとした。

アメリカでは、双子の赤字(財政収支と経常収支の両方が赤字になること)の拡大により、ドル安圧力がさらに強まる可能性がある。財政赤字は17年対GDP比で3.4%だったのが、19年には5.4%に拡大。同様に、経常赤字は同2.3%から4.1%に拡大する見通しだという。

「過去5回の著しい財政赤字の拡大は不景気を受けて生じたもので、失業率は上昇中。FRBは緩和サイクルにありました。しかし今回は対照的で、インフレ率の上昇加速と経常赤字の拡大を引き起こす可能性が



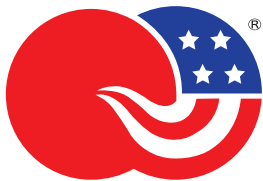
日系企業の収益に深く影響する日米経済がテーマだったことで、多くのビジネスパーソンが聴講した。

あります」(佐々木さん)。

さて、円の上昇を抑える要因としては日本企業による対外直接投資が挙げられる。日本企業はアベノミクス開始後の13年から対外直接投資を急増させており、同年にネット対外直接投資は前年比4.9兆円増加。初めて10兆円を超えた。さらに17年には16.8兆円と過去最高記録を樹立。アベノミクス前の5年間の年間平均対外直接投資額は7.9兆円だったのに対して、アベノミクス下の5年間の平均額は14.9兆円にも上った。直接投資先として多いのはアメリカで、17年の投資額は5.8兆円と全体の3割を占めた。このように、13年以降で合計77兆円の対外直接投資が行われたわけだが、佐々木さんは「その約半分は円売りを伴っていてもおかしくない」としている。

最後に、「日本の経常黒字に占める貿易黒字の割合が減少していることも円上昇の抑制要因である」と佐々木さん。日本の貿易赤字は12～14年にかけて急増しており、エネルギー価格の急騰とアジアからの輸入増をその主因としている。16年以降は、経常黒字は2年連続の20兆円台(GDP比約4%)に戻っているが、同様に20兆円台だった06～07年に比べると貿易黒字が占める割合が小さくなっていることなどから、円上昇が抑制されるとみている。

北川 & イバート法律事務所



KITAGAWA & EBERT, P.C.
(949)788-9980 日本語でどうぞ。
www.JAPANUSLAW.COM

With Lawyers Licensed in Multiple States Including
CALIFORNIA • TEXAS • NEW YORK • GEORGIA • NEVADA • U.S. PATENT • WASHINGTON DC
 北川・イバート両弁護士ともにMartindale-Hubbell Peer Reviewにおいて“AV PREEMINENT”(法的能力・道徳性)評価

WALL STREET JOURNAL, Chicago Tribune, Los Angeles Times 弊社勝訴が各誌にて紹介

必勝・難題解決のプロ・良心的

- 訴訟・仲裁・裁判・債権回収
- 契約法・ビジネス取引・流通
- 雇用法・残業・セクハラ・RIF
- 資産売却・M&A・無税法人再編成
- 不動産・リース・建設・売買
- 税務争訟・遺産・相続

北川 リサ 美智子 弁護士

京都大学法学修士
 東京大学法学研修
 連邦最高裁判所認可弁護士

CALIFORNIA, TEXAS, NEW YORK, GEORGIA
 (MAIN) 300 SPECTRUM CENTER DR. SUITE 960, IRVINE, CA 92618-4998
 (TEXAS) (BY APPT.) 5851 LEGACY CIRCLE, 6TH FL., PLANO, TX 75024

各部会からのお知らせ

ダウンタウン地域部会

「大リーグ観戦」に参加しての感想

文：MUFG Union Bank, N.A.・森 洋人さんのご息女、千夏さん

9月2日(日)にドジャースタジアムで行われたドジャース vs ダイヤモンドbacks戦を観戦しました。何回か野球は見に行ったことがあったのですが、今回は早めに球場に行って、選手が練習するのを見たり、みんなでドジャードッグを食べたり、抽選会があったり(外れましたが)で、いつもと違った楽しさがありました。練習中は一番前の席まで行けたのですが、近くで見る野球選手はとても大きかったです。あと、少し遠かったのですが、前田選手がキャッチボールしているところも見られて、テレビで見るよりも大きいなと思いました。

試合中は、周りの人たちから「Let's go Dodgers」のコールがかかったり、ウェーブが起きたりして、すごく盛り上がりました。試合は9回表に点を入れられてしまっただけで「今日は駄目かな」とお父さんが言っていたのですが、9回裏にドジャースがサヨナラ逆転ヒットを打って逆転勝利。ヒットの瞬間は全員が立ち上がって大喜びしていてすごい雰囲気でした。

試合後には、フィールドに下りることができました。今まで選手が走っていたりした場所に自分がいるのが不思議な気分でしたが、とても広くて、芝生がきれいだったことを覚えています。妹たちとダイヤモンドを1周走ったのですが、案外短くてあっという間でした。あと、選手がいたベンチはゴミがたくさん落ちていてとても汚かったのでびっくりしました。今度は前田選手や大谷



精一杯応援しました!

選手などの日本人選手がプレーするところを見たいです。



ドジャースがサヨナラ勝ち!

サウスベイ地域部会

「ビーチクリーンアップ」を行っての感想

文：ASA Digital・福里陸朗さん

去る9月15日(土)、JBAサウスベイ地域部会で毎年恒例の地域貢献イベント、ビーチクリーンアップを、LAX付近のDockweiler Beachで行いました。当日は南カリフォルニアらしい晴天に恵まれ、爽やかな潮風に吹かれる中、45名程の方にご参加いただきました。本イベントはNPO法人Heal the Bayが主催しており、毎年カリフォルニア各地で計5万人以上が参加し、500トン近くのゴミやリサイクル資源が集まります。

イベントの冒頭にはHeal the Bayの豊島さんから、注意事項や取り組みについてお話しいただきました。カリフォルニアのビーチでは早朝に専用車両での清掃が行われているため、大きなゴミはあまり目立たず、近くの下水処理所から流れてくるものや、雨風で飛ばされてくるゴミがほとんどのことでした。

約1時間の清掃活動の後、他団体の参加者と集まり、その日の清掃結果が発表されました。一人一人では一握りのゴミしか集めることができなかったものの、全員分のゴミを集めた光景はまさに「塵も積もれば



Heal the Bayからの説明に耳を傾ける参加者の皆さん。

山となる」でした。カリフォルニアの綺麗な海は、この様な活動やボランティアの皆様によって保たれていることを思い知らされました。



丁寧に砂の上のゴミを拾っていきます。

サウスベイ地域部会

「ミラマーエアショー・バスツアー」を行っての感想

文：Satoh Brothers International, Inc.・橋本武士さん

去る9月29日(土)、サンディエゴにあるミラマー海兵隊航空基地で行われたエアショーに初めて担当委員として参加した。催行人員は全53名。快晴、最高気温が摂氏23度と天候にも恵まれ、カリフォルニアの真っ青な空をキャンバスに繰り広げられるさまざまな飛行機のショーを、時間の経つのも忘れ堪能した。

朝9時15分、トランスのMiyako Hybrid Hotelを時間通りに出発。参加者の皆さんのマナーの良さは抜群だ。行きのバスの中では、用意されたおやつを食べながら、日本航空の鈴木真治氏による「航空教室」が行われた。子ども向けにやさしくアレンジされた教室だが、「100トン以上もある機体がなぜ空を飛べるのか?」「飛行機はいくらするのか?」など、大人も十分に楽しめる内容だった。最後に航空クイズが行われ、皆、日本航空提供のたくさんの賞品をゲットしようと大いに盛り上がった。

交通渋滞もあり予定より少々遅れて到着したので、バスから降りた後は、セキュリ



多くの観客で埋め尽くされた観客席。



ブルーの機体がかっこいい戦闘機。



ミラマーエアショー参加者全員で記念撮影!

ティーンゲートを通り、大勢の観客で賑わう広大な敷地を人をかき分け観覧席まで直行。途中たくさんのベンダーや、エキシビションが至る所にあり、お祭り気分を最高に盛り上げてくれていた。JBAの席はブルーエンジェルスBlue Angelsの飛行機6基が勇壮に展示してある滑走路の真ん前の席で、気分も上々だ。プロペラ機によるアクロバット飛行、オスプレイのデモ飛行、トップガンTop Gunを彷彿とさせるジェット機の編成飛行などなど、さすがアメリカ! エンターテインメントの本場だけあって、軍隊もとにかく観る者を飽きさせない。音楽とDJ、爆音、神業の飛行とが一体となって断続的に繰り広げられる圧巻のエアショーだ。

エアショーの大トリは、やはりブルーエンジェルス! 鮮やかなブルーに包まれた美しいフォルム。エリートパイロット6人の登場から飛行機に乗り込むまで息の合った一挙手一投足が、これまた最高にかっこいい演出だ。離陸のフォーメーションをスマートにキメた後は、爆音と目の前で繰り広げられる人間業とは思えないショーに、感動。至る所で歓声とどよめきが起こる。鳥肌ものとはこのことだ。

これだけのスケールとテクノロジーの詰まった航空ショーは他のどこで見られるのだろうか? 感動と満足、少し日焼けして熱くなった素肌を夕方の涼しい風にそっと撫でられ、長く伸びる人々の影を追いながらミラマーを後にした。これらの戦闘機が実際に使用されないことを祈りながら…。ちなみに、上を見過ぎてメチャ首が痛くなりました。ご参加された皆様、お疲れ様でした!

オレンジカウンティ地域部会

「OC現地校セミナー」に参加しての感想

文: Yamaha Motor Corporation, U.S.A.・柴田英貴さんの奥様、由紀子さん

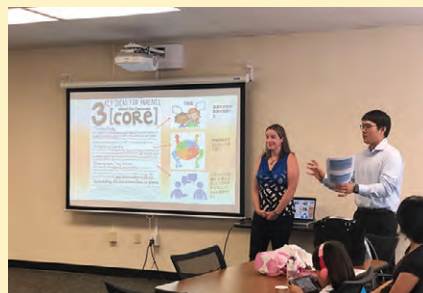
9月22日(土)、アーバインで行われたOC現地校セミナーに、ファーストグレードになったばかりの娘と一緒に参加しました。

JBAオレンジカウンティ地域部会長さんの開会のご挨拶から始まり、アーバイン統一学区の先生、スタッフの方々の紹介を受けました。その後20分ほど、学区事務局にて日本語コーディネーターとして活躍されている楠部さんに、入学・編入学の手続き方法、生徒の英語能力を測るテストであるELPACについて、さらにELDやSEIプログラムを提供している学校、保護者と現地校の先生方とのコミュニケーションの取り方などを教えていただきました。これらの説明は全て日本語で受けられたので、通訳を介することによるタイムラグがなく、非常にスムーズで分かりやすかったです。会場にはドーナツとコーヒーが用意されていて、セミナー参加者はそれぞれコーヒーを飲んだり、ドーナツを頂いたりして、和やかな雰囲気の中で第1部は終了しました。

10時からは第2部ということで、TK(Transitional Kindergarten)~2年生、3~6年生、7~12年生の3つのグループに分かれ、現地校でそれぞれの学年グループの担任をなさっている先生方からお話を伺いました。私には5年生の息子もいますので、まずは3~6年生のグループに行き、カルバーデール小学校にお勤めの先生からお話を伺いました。6年生の春に行われる、中学校でのクラス配置を決めるための英語と数学のレベル決定テストの詳細が分かり、とても有意義でした。10分間の休憩の後は、7~12年生のグループに参加してみました。中学・高校になると、日本と違ってホームルームがなくなるので、子どもがちゃんと適応できるか心配しているのですが、アーバイン学区はカウンセラー制度が充実しているようだとは分かり、不安が少し解消しました。



第1部、全体説明会の様子。



第2部の懇談会(3~6年生)の様子。



第2部の懇談会(TK~2年生)の様子。

その後、第1部を行った部屋に戻り、第3部として、現地校に通う日本人生徒と、その保護者によるパネルディスカッションとなりました。そこで娘と私はパネラーとして、学校に持って行くべき物や宿題、習い事などについて皆さんにお話しをさせていただきました。娘と私の話が、参加者の皆さんにとって少しでも参考になっておりましたら幸いです。

アーバイン学区内の学校にこれからお子さんを入れようとなさっている親御さんにとって、このセミナーは日本語で現地校の情報を得ることができる、とても有益な場であると思います。また、既にお子さんが現地校に通っている場合でも、自分が持っている現地校に関する知識の確認、更新に役立ちます。

最後になりますが、このセミナーを毎年開催してくださっているJBAのボランティアスタッフの方々に感謝の意を表して終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

「カタリナ島ツアー」に参加しての感想

文：KAGA (U.S.A.), INC.・浅子直輝さんのご子息、拓真さん
アメリカに来て4年が過ぎ、カタリナ島へは一度も行ったことがなかったので、とても楽しみにしていました。島民はどんな生活をしているのか、島のシステムはどうなっているかなど、カタリナ島について知りたいことで頭がいっぱいでした。

8月25日(土)午前6時50分、集合地到着。ツアー参加者は約50名おられました。船のチケットを受け取り、いざ出発！船の旅は1時間ちょっとでしたが、想像以上に長かったので、結構本土から離れているんだなと実感しました。到着してすぐにツアーが始まり、トラムで島を回りながらガイドさんからたくさんのことを教えてもらいました。島民は約4000人で、観光客を合



皆でトラムに乗り込む様子。



島の風景。島内移動用のカートがたくさん停まっています。

わせると時期によっては1万人を超えるそうです。島の中の自動車は800台に制限されているため、これ以上増えることはないとか。申請はできるものの、許可されるのは15年後ということでした。ほかにもカタリナ島で昔、映画の撮影のために連れてこられた数頭のバッファローが600頭まで増えたため、現在では数が増えすぎないように管理しているそうです。そしてカタリナ島の歴史や海水を真水に変える浄水システムについても教わりました。水はとても貴重なんだと分かり、良い勉強になりました。島の景色はとても綺麗で、気付いた時にはスマートフォンのアルバムはカタリナ島の写真で埋め尽くされていました。中心地アパロンはすごい賑わいで、人々はとても楽しそう。私自身もそれを見てとても楽しくなりました。

島を周り、いろいろ教わった後は自由時間だったので、家族とともに砂浜の景色が見えるレストランへ行きました。緩やかな波の音を聞き、快適な気候の中で食べるハンバーガーは、いつもよりおいしく感じました。昼食後、私は父と弟とモーターボートに乗り、今度は海からの島の景色を楽しむことができました。海上側から島を見ると、アパロンの後ろには壮大な自然があり、カタ



ボートの上でパジャリ。

リナ島の大きさが分かりました。海では同じようにボートで楽しむ人や、クルーザー船に乗って景色を眺める人々など、たくさんの方々がいろんな遊びをして楽しんでいました。カタリナ島で借りるボートは船の免許が必要ないので、沖に出てから父に少しだけ、ハンドルを握らせてもらいました。自分で操作して動かすというのは、ただ乗っているよりもっと楽しいということも初めて体験することができました。

ボートを降り、次に行ったプログラムの一環であるグラス・ボトム・ボートツアーは、船に乗りながら島の魚を見ることができるというとても面白いツアー。水族館では見ることができない野生の生き生きとした魚たちを見ることができました。ガイドさんがツアー中に説明してくださったカリフォルニアの州魚、オレンジ色をしたガリバルディ



カタリナ島ツアー参加者で記念撮影!



401(k)のお手伝い、致します。

Voya Financial提供の401(k)プランを導入いただくと、
JBAメンバーの皆様にはサービスフィーを特別料金にてご提供できます。
また、既にVoya Financialの401(k)プランを導入されている企業の皆様も、
サービスフィーを調整することが可能です。
興味のある方はぜひ、弊社までご連絡ください。

LPL Financial

Miho Hatori CPFA 羽鳥美保 Financial Advisor
CA Lic #0F51975

www.assetplanandprotect.com
949-877-3505 teamhatori@lpl.com

VOYA
FINANCIAL

Securities and advisory services offered through LPL Financial, a registered investment advisor. Member FINRA/SIPC.
LPL Financial and Voya Financial are separate, non-affiliated entities.

も初めて見る事ができました。海が苦手
で入ることができない私には、野生のたく
さんの魚たちを船から見る事ができてとて
もうれしかったです。

その後は夕方まで自由時間だった
ので、お土産を見たり、スムージーを飲み
ながら散歩したりしました。家は古くて小さい
ものが多いとガイドさんから聞いていたの
で奥の家々を見学しに行くと、本土とはまた
違った雰囲気が残っていて、そこからは
歴史の息吹を感じ取ることができました。
自然に囲まれ、静かで、小さいながらも住
み心地が良さそうでした。

いろいろ見て回っているうちに、あつ
という間に出航の時間になったので、船に乗
る列に並びました。8時間余りの滞在でし
たが、ここまで観光できたのはとてもうれし
かったです。気になっていたことは全て知る
ことができたし、夏休みも終わり、休み気
分を失いかけていた私にとってはとても充実
した1日でした。

あさひ学園だより

50周年マスコット キャラクターが決定!

文：あさひ学園事務局

9月下旬、あさひ学園事務局にて今年度
5回目となる「創立50周年プロジェクト委
員会」が開催されました。今回は、1969
年の創立時、本校教員として深く携わって
くださった薄井與志雄先生が参加され、当
時のあさひ学園の様子や名前の由来など
のお話をうかがいました。また、委員会
では50周年プロジェクトについて熱く議論
され、なかでも、記念マスコットキャラ
クターコンテスト最優秀賞の選考会では、真
剣に応募イラストに目を通し、意見交換が

行われました。児童生徒から総数160点の
応募があり、各4校で部門別入賞した3作
品が委員会に届けられました。いずれもレ
ベルの高い作品ばかりで、選考では接戦と
なり、委員も苦慮していましたが、最終的
に2校から2名の作品（トーランス校小5・
ロドリゲス桃、オレンジ校中1・中静桐生）
が選ばれました。学問の鳥のフクロウと50
周年をモチーフにしたメガネなど、彼らの
デザイン画の特徴を組み合わせた50周年
キャラクターが誕生しました。今後、本校
のさまざまな記念プロジェクトで活躍して
いく予定です。また、応募した全児童生徒に、
参加賞として、企業からご寄付をいただ
いた色鉛筆セットが贈呈されました。



真剣に選考する委員会役員たち。



50周年記念マスコットキャラクター（表・裏）。

新入会企業紹介

ボランティア活動やイベント
等への参加を通して、コミュ
ニティーの繁栄に貢献でき
ればと思加入させていた
できました。仕事面におきま
しても協業などの機会がで
きればと考えています。



浅井文司さん

01

KIKUSUI AMERICA, INC.

DATA

住所：3625 Del Amo Blvd., Suite 160,
Torrance, CA 90503
☎ 310-214-0000
Web: www.kikusuiamerica.com
責任者：浅井文司（CEO）
従業員数：4人

KIKUSUI AMERICA, INC. は、
1951年創業の電源と計測器の製
造メーカー、菊水電子工業の米国
販売拠点。電気測定器と試験用の
精密電源機器の販売を行っている。
今年で設立15年目を迎え、
7月にサンノゼからトーランスへ
移転してきた。同社の製品は一般
の人の目に触れることは少ない
が、航空機や自動車に搭載される
電子部品等の研究開発や、安全
性能評価などに利用されている。
アメリカの最先端研究開発分野で
同社製品がさらに貢献できるよう、
事業の拡大を目指す。



オフィスの移転・改装は 「オフィス設計」

- 設計・レイアウトデザイン
- 各種内装工事
- オフィス家具
- 電話・LAN・セキュリティー
- 引越・移転作業
- プロジェクトマネジメント
- コストマネジメント



Office Sekkei America, Inc.


☎ (310) 715-1001 ✉ la@officesekkei.com
www.officesekkei.com/us

11/12 月のJBAイベントカレンダー

<p>11/2 (金) 第214回 ビジネスセミナー 企画マーケティング部会</p>	<p>11/15 (木) 2018年度トランス商工会 JBAグランドミキサー サウスベイ地域部会</p>	<p>11/16 (金) 第215回 ビジネスセミナー 企画マーケティング部会</p>	<p>11/17 (土) カレッジフットボール 観戦 ダウンタウン地域部会</p>
<p>11/28 (水) 第216回 ビジネスセミナー 企画マーケティング部会</p>	<p>11/29 (木) ワインを楽しむ 初級講座 サウスベイ地域部会</p>	<p>12/9 (日) アッパーニューポートベイ自生植物 保護活動と日本食お弁当ピクニック オレンジカウンティ地域部会</p>	<p>12/14 (金) 第217回 JBAビジネスセミナー 企画マーケティング部会</p>
<p>12/15 (土) 「アメリカン・バレエ・シアター The Nutcracker」鑑賞 オレンジカウンティ地域部会</p>	<p>12/16 (日) ゴミ拾い ハイキング ダウンタウン地域部会</p>		

※各イベントの詳細は、JBAウェブサイトをご覧ください。

スタート・パシフィック



日不動産仲介企業のリーディングカンパニー

海外への進出企業を一括サポート

もちろん、個人の住宅もサポート

海外への進出企業を一括サポート

オフィスや倉庫、工場などのリースから、社員用住宅まで不動産に関する事は、お気軽にご相談下さい。

●ロサンゼルス店:
TEL (310)782-7877
1219 El Prado Ave., Torrance, CA 90501
info@startsla.com
www.starts.co.jp/la

●ニューヨーク店:
TEL(212)599-7697
www.startsnewyork.com

●サンゼ店:
TEL(408)380-2499
www.starts.co.jp/sanjose

●スターツコーポレーション株式会社:
TEL (03)6202-0111(代表)
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目4-10
スターツ八重洲中央ビル
www.starts.co.jp

●ハワイ店:
TEL(808)947-2280
www.startshawaii.com

●ダラス店:
TEL(646)708-6194
www.kaigai.starts.co.jp/dallas

STARTSは東証一部上場。L.A.店は1989年設立。営業所はオールド・トランスにごさいます。いつでもお気軽にお立ち寄りください。日本人スタッフがお待ち致しております!

オフィスや倉庫、工場から、社員用住宅まで、日系企業様の不動産ニーズに即したサービスを高いレベルで提供いたします。飲食店のご相談もどうぞ。

ご自宅の購入・売却から、賃貸物件の管理までお任せ下さい。投資や節税に関するご相談も無料で受け付け中です。ご帰国時の日本でのお住い探しもご相談下さい。

パシフィックリム・カンパニーベネフィット・プログラム 米国駐在員のための金融サービスパッケージ

- ・渡米前に日本からの口座開設が可能
- ・便利な日本語コールセンター (Union Bank®*1・ジャパニーズ・カスタマーサービスユニット)
- ・ご帰国後の口座管理にも便利

まずは日本語コールセンター **1-888-507-7669** (フリーダイヤル・日本時間にも対応)までお問い合わせください。



A member of MUFG, a global financial group

*1 法人名の邦訳：ユニオンバンク

©2018 MUFG Union Bank, N.A. All rights reserved. Member FDIC.

Union Bank is a registered trademark and brand name of MUFG Union Bank, N.A. Visit us at unionbank.com/japanese.